

P36 漢字の形と音・意味

問 共通するところを○で囲みましょう。

我々の要求が認められた。 共通する部分は何？ (求)

プロ野球のリーグ戦が始まる。 共通する読み方は？

けが人は無事に救助された。 (キョウ)

課 同じ部分を持ち、同じ音の漢字を見つけよう。

□ 次の各文の□に当てはまる漢字を()から選びましょう。

どの部分が共通でどんな読み方をしているでしょう。

① (化・貨・サ化) 読み方 (カ)

・文 化 を伝承する。

・校庭の桜が開花 した。

・蒸気機関車が、貨物列車を引っ張る。

- ② (静・清・晴・青) 読み方 (セイ)
- ・ 細心の注意をはらって、手紙を清書する。
 - ・ 冷静な判断で、物事に対処する。
 - ・ あの青年は、銀行に就職した。
 - ・ 晴天なので、洗濯物を干す。

- ③ (則・側・測) 読み方 (ソク)
- ・ 地層の年代を測定する。
 - ・ 規則正しい生活をする。
 - ・ 箱の側面に名前を書く。

☆自分で問題を作ってみよう。(辞書を使っても良い)

読み方 (ソク)

※苦手な子は二問でも良い

イ(ぎょうにんべん)

↓「行く」や「道」などの意味を表す漢字に使われる

問

□の中に「イ」の付く漢字を書きましよう。

役 所と駅の間を、徒 歩で 往 復 する。(おうふく)

母は恩人を招 待 し、得 意料理をふるまった。

裁判官は法 律 にもとづいて判断する。

課 同じ部分をもつ漢字で、共通する意味をもつものを

見つけよう。

月(にくづき)

↓元は「肉」で、体に関する漢字に使われる

「にくづき」↓腹・臓・脳

「つきへん」↓服・朝・期



注意

② 次の部分をもつ漢字を集め、部分が表す意味を考え、漢字辞典で確かめましょう。(三字以上)

うかんむり

① 宀

漢字 (安・守・室・寄・完)
意味 (家・屋根) の意を表す

② 扌

てへん

漢字 (打・指・持・接・折)
意味 (手) の意を表す・手や手の動きに関する

③ 忄

リコシん

漢字 (快・性・情)
意味 (心) の意を表す・心の動きや心情を表す

④ 刂

リツとう

漢字 (列・別・利・刻・制)
意味 (刀で分ける) の意を表す・刀の働きに関する

※ 国語辞典にのっているものであればです。

P58 話し言葉と書書き言葉

どんな違いがあるか考えながら進めよう。

① 食材にはこだわっていて、野菜も卵も地元産なんですよ。
あ、牛乳もだ。これは、愛用のフライパン。店を始めたときから十年間、使っているよ。

⇓
 ② 食材は、野菜も卵も牛乳も地元産を使っている。
 フライパンは、創業以来十年間、愛用している。

課 話し言葉と書書き言葉にはどのようなちがいがあるか考えよう。

話し言葉

書書き言葉

気持ち

声の出し方で気持ちを伝えることができる。

伝えるにくい

まちがい

すぐ直せる。

文字は残ってしまう

伝え方

相手に応じて選べる
(敬言・方言・共通語)

語順が整ってなくても伝わる

語順や構成を修正する
誤解を与えないように
主語を明らかにし、誤字が
ないようにする

共通・・・伝える内容は同じ！

☐友達への手紙やメールなどでは、話し言葉をそのまま文字にして伝えることがあります。話し言葉と書き言葉の特徴をふまえて考えましょう。

・どんな特徴があるか。

例) 話し言葉では、語順が整ってなくても声の出し方で伝えられる。
書き言葉では、うまく伝わらず、誤解を生んでしまうこともある。

・気をつけることは何か。

例) 書き言葉では、その場にいるわけではないため、メール等を送る前に読み直したり、丁寧な言葉を使うようにする。

⑤ それぞれの特徴を理解したうえで適切な言葉を使うことが大切。

P60 たのしみは

課 表現を工夫して短歌を作ろう。

○たのしみはどんな時ですか。

例・友達と一緒にサッカーをする時

・家族みんなで夕飯を食べる時

・おいしいものを食べている時

など

☆橘たちばな曙あけみ覧

(江戸時代の歌人)※P61の短歌を参考にする

○短歌のきまり「五・七・五・七・七」の三十一音

小さな「つ」やのばす音、「ん」も一音と数える

〈例〉しっよっきん (三音) おんとうさん (五音)

○表現の工夫

- ・音や様子を表す言葉を入れる。
- ・たとえへ比^ひ喩^ゆを使う。
- ・順序を入れ替える。

○どちらがより「たのしみ」が強く伝わってくるか考えよう。

題材の例

- ・今朝、起きてからのこと
- ・家の人や友達のこと
- ・季節のこと
- ・しゃべること

①たのしみは夜空の中に弟と知ってる星座探し出す時

②たのしみは夜空を見上げ弟と知ってる星座見つけ合う時

想像しやすい

二人で楽しんでいる様子

○「たのしみ」がよりよく伝わるように短歌を作ってみましょう。

たのしみは

⑦

⑦

⑤

時

P64 文の組み立て

○五枚のカードを並べかえて、意味の通る文を作ろう。

木を

庭に

ぼくは

植えた

昨日

(昨日ぼくは庭に木を植えた・ぼくは昨日木を庭に植えた)

※植えたが最後にあるかな？

※「植えた」のような述語に当たる言葉は、ふつう文末に置く。

「何が」「誰が」に当たる

「どうする」「どんな」「何だ」に当たる

○文の中の主語と述語の関係

一つの文の中に、主語と述語が二つ以上出てくる場合もある。

① 枝が のび、葉が しげる。

短い文に分けることでわかりやすくなる

ぼくが木を植えた。

その木が育った。

② ぼくが 植えた

木が 育った。

修飾

10

15

20

課 言葉の順序や主語と述語の関係に気をつけて文を
読んだり書いたりしよう。

① 主語と述語の関係を見つけてみましょう。

券売機が故障したうえに、電車がおくれた。
①主 ②述 ③主

立派な敬言察署が完成し、住民は喜んだ。
①主 ②述 ③主

祖父が通う銭湯が県庁の近くに移転した。
①主 ②述 ③主

② 次の文を二つの文に分けて書き直し、同じ内容を表してみよう。

・ 姉がくれたカップはとてもかわいい。

例) 姉がカップをくれた。 ・ そのカップはとてもかわいい。

・ 有名な作家が訳した外国の童話を読んだ山田さんが感想を述べる。

・ 有名な作家が外国の童話を訳した。

・ その童話を読んだ山田さんが感想を述べる。